



芭蕉誌

第24号

2024年9月発行

琉球大学同窓会関東支部会報誌



2023年度の関東支部総会

本年度の総会・懇親会のお知らせ

日時:2024年10月19日(土) 13:00~16:00

場所: 千代田区一ツ橋2-6-2 日本教育会館(9F) 喜山倶楽部

会費 8,000円

お気軽にご参加下さい
懐かしい、そして楽しい出会いがあります

※ご不明の点は事務局へメールまたはお電話でご照会ください

編集発行 琉球大学同窓会関東支部・事務局

目 次

P 1	表紙	2024年度総会・懇親会のお知らせ
P 2	目次	2024年度総会・懇親会の式次第
P 3	高山 厚子支部長(初等教育学科1962年入学)	挨拶
P 4	西田 睦学長	ご挨拶
P 5	幸喜 徳子本部同窓会会長(保健体育学科1962年入学)	ご挨拶
P 6 ～ 7	同窓生便り	比嘉 盛賢氏(土木工学科1964年卒業)
P 8 ～ 9	同窓生便り	池間 裕氏(電気工学科卒業1989年卒業)
P 10	写真で見る琉球大学この1年	
P 11	決算報告及び予算案	
P 12	同窓会費納入のお願い・ご寄付のお願い、	役員名簿

2024年度 琉球大学同窓会関東支部 総会&懇親会 式次第(予定)

日 時: 2024年10月19日(土) 場 所: 日本教育会館9F (喜山倶楽部)

【総 会】 13:00～13:30

高山 厚子支部長 挨拶

幸喜 徳子本部同窓会会長 ご挨拶

西田 睦学長 ご挨拶

講案(報告及び審議)

活動報告、決算報告、予算案審議、監査報告、役員改選、他
本部同窓会からの活動費贈呈

【記念撮影】 13:30～13:40

【懇 親 会】 13:45～16:00

開会の辞

新入会員紹介、ホームページ等紹介

1分間スピーチ

閉会の辞



本部同窓会からの活動費贈呈(2023年度関東支部総会)



西田学長のご挨拶(2023年度関東支部総会)

学生時代の歴史を共に紡ぎましょ！ 出逢いは宝にしましょ！ 琉球大学同窓会関東支部という共通の場から

支部長挨拶



琉球大学同窓会関東支部長 高山厚子

- | | |
|------------|---|
| 1966年 | 琉球大学教育学部初等教育学科卒(卒業後・英文科聴講生) |
| 1970～2003年 | ・東京都小学校教諭・教頭・校長(最終校板橋区立金沢小学校)
・都教育研究員・板橋区教育委員会秋外派遣教諭(米国・カナダ)
・都教育委員会JRC副会長(中・高校生モンゴル派遣団長)他
・朝日のびのび教育賞・読売教育賞最優秀賞(学校の指導運営部門)
・NHK未来派宣言等々にて環境教育を日本・世界に発信 |
| 退職後 | ・板橋区・三鷹市教育委員会不登校対策室・文教大学外部講師・都立国際高校外部講師(沖縄授業)・緑のカーテン運動(料理から全国へ紹介)
NHKワールド・あさイチ・秘密のケンミンショー・新聞等々 |
| 現在 | ・沖縄県修学旅行アドバイザー(令和3年度沖縄県観光功労者受賞)
・沖縄料理教室(自宅&出張)・執筆や講演等々
・著作(緑のカーテンの恵みを食べよう)他。
・空飛ぶあっちゃんのプログやFaceブック等で情報発信も。 |

「10月第三土曜日は、何の日?」「琉球大学同窓会・関東支部の日」です。 カレンダーに、手帳に、心に、永遠に記録して下さいませ。

2024年の夏も、激暑、激暑、日本中で、世界中でも、いや、地球上での自然災害、人為災害の多い年でした。皆様は、どのような日々を送られたのでしょうか？

本年度も、この芭蕉誌をお届けできますこと、関東支部総会及び懇親会でお目にかかれますことを幸せに思います。

「時は流れゆくもの、待ってくれない」、と、言われていますが、昨年の関東支部同窓会は、4年振りに開催でき、お一人お一人の近況をお話し頂き、「楽しいことも、つらいことも、同窓生の笑顔に出会うと、新しい元気と前に進む勇気が湧いてきました。」と、多くの方から嬉しいお声が届きました。

西田睦学長からも、「卒業生の色々な方と直にお話しできて親しみのある同窓会ですね」とのお言葉を頂き、その日に沖縄へお帰りになるというのに、教授時代の教え子も急遽駆け付けたり、二次会までもお付き合い頂きました。

まさに、同窓会での出逢いは宝です。「共通の場や心の交流の記憶は残るもの、感動は前に進ませるもの」と、深く思った私でした。

同窓会とは、年代は違えども、人生の目的に向かって夢を叶えんと努力した琉球大学という共通の場を共に踏みしめ、人生のスタートを歩みだした場なんだ、その土台が今も繋がっているのだ、とつくづく思いました。

本年度も、西田睦琉球大学学長、幸喜徳子琉球大学本部同窓会長がご参加の予定です。

当日、幸喜徳子本部同窓会長から、お話があるかと思いますが、本部同窓会は、本年度、2024年12月に創設70周年を迎え、幸喜会長の先導の下、多くの企業や個人から集めた多大な寄付を土台に、様々な大学や学生支援や地域貢献等々の実績で、大学にも、沖縄県にも、その存在感をもたらしております。関東支部でも、皆さんからのご寄付を心からお願い申し上げます。

今年12月の70周年記念や翌年2025年2月の同窓生による沖縄の伝統文化等の演劇祭には、関東支部からも参加できるというなあ、皆で、故郷琉球大学訪問ツアーもいいなあ～と、内心想っております。如何でしょうか？

最後に、事務局を担って下さっている中島信一郎さんや中島法律事務所のスタッフの方々、この芭蕉誌の編集に関わって下さっている金城利光さんや幹事の方々、皆さんの支えがあってこそ、関東支部が継続できています。感謝しかありません。心よりお礼を申し上げます。

どうぞ、皆様、同級生や部活仲間やご家族や、沖縄大好きな友人知人にお声かけ、今年も是非のご参加を！皆様にお会いできることが、81歳の私の元気の秘密です。

持続的な発展を遂げる大学を目指して

学長ご挨拶



第17代琉球大学学長 西田 睦

1972年 京都大学農学部 卒業
1977年 京都大学大学院農学研究科博士課程 単位取得(1983年農学博士)
1980年 琉球大学理学部 助手
1991年 カリフォルニア大学バークレー校 客員研究員
1993年 福井県立大学生物資源学部 助教授
1999年 東京大学海洋研究所 教授
2007年 東京大学海洋研究所 所長
2013年 琉球大学 理事・副学長
2019年 琉球大学 学長

琉球大学同窓会関東支部の皆さまには、永きにわたり本学の諸活動へのご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。本学創立以来、これまでに輩出した9万名を超える卒業生・大学院修了生が関東をはじめ国内外で活躍してきたことは本学の誇りです。そして来る令和7年1月には病院、4月には医学部が西普天間キャンパスへ移転するという、さらなる展開も間近です。

さて、コロナ禍を経て、社会の有様は以前に戻りつつある面と、社会の変化がますます速くなっている面があることを実感しております。本学はその変化に対応するため、より創造的な研究や地域貢献活動を推進し、持続可能性、ウェルビーイングを重視する社会への転換に、本学ならではの貢献をしたいと考えています。

こうした貢献を効果的に行うためにも、本学では、琉大版DX「琉大トランスフォーメーション(RX)」推進事業に取り組んでいます。RXをはじめ本学の取組に学外の視点からの意見等をいただく「外部評価委員会」も設置しました。

教育面・国際交流面では、本学を中心にハワイおよび台湾の大学と連携した取組が文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」に採択され、これまで培ってきた教育手法を生かしたプログラムを実施しています。また、南米4か国の沖縄県人会の子弟の本学への留学を支援する制度を創設、さらに女子学生の割合が低い工学部における募集人員への「女子枠」の創設など、本学は、これまで以上に学生構成の多様化を進め、視野の広い柔軟な創造力を持つ人材の育成に取り組んでいます。

研究面・地域貢献面では、全学の技術系職員がより高いレベルで活動する「総合技術部」を設置し、企業や地域社会と本学がより密接に関わることができる場として、大学発スタートアップの創出・成長を目指す「Startup Lab Ryudai(琉ラボ)」を開設しました。

このように自らを変革し、国際性・多様性を大切にしつつ、「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」としてさらに前進することを目指し、「アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点となる大学」への歩みを強めたいと考えています。

関東支部の皆さまにおかれましては、今後とも本学と在学生そして卒業生を結ぶ要として、母校と後輩への篤いご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



令和5年12月13日 沖縄地域留学生交流推進協議会総会・親善交流会

同窓会創立70周年に向けて

同窓会会長ご挨拶



琉球大学同窓会9代目会長 幸喜徳子

出身地 沖縄県那覇市

経歴

1966年 琉球大学教育学部卒業

県立豊見城高等学校教諭拝命(～66)

1967年 日本航空(株)国際線 乗務(～70)

1977年 沖縄石油ガス(株)(～現在)

1994年 沖縄キリスト教短期大学

非常勤講師・特任教授(～2014)

2004年 沖縄県公安委員・委員長(～12)

資格・褒章等

1989年 アメリカ連邦航空局

自家用パイロット免許取得

1999年 アメリカ連邦航空局

パイロット座学教官免許取得

2014年 旭日小綬章 受賞 皇居参内

2018年 琉球大学 名誉博士 授与

厳しい暑さが続いておりますが、関東支部の皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。

支部会報「芭蕉誌」第24号発刊あたり、同窓会創立70周年記念事業の取り組み状況をご報告させていただきます。

琉球大学の創設が1950年5月22日、琉球大学同窓会は4年後の1954年12月4日に発足し、本年12月に創立70周年となります。発足時の会員数は148人でしたが、現在では89,000人余となり、同窓生は県内外を問わず世界各国で活躍しています。

これまで活動を支えてくださいました同窓生の皆様に深く感謝申し上げます。

同窓会では創立70周年を迎え、「絆をつむぎ未来につなぐ」をテーマに、学生及び母校支援を目的とした記念事業を企画して推進しています。

先ず、給付型奨学金の資金造成等を図るため、2023年3月から募金活動をスタートしました。なお、企業向けは募金推進委員会(県内経済界で活躍する17名で構成)を設置して同年11月から取り組んでいます。関東支部の皆様からのご寄付を賜り、心より感謝申し上げます。

募金につきましては、全国の同窓生や企業からご寄付が寄せられておりますが、まだ目標金額に達していませんので、募金期間終了(2025年3月31日)まで、引き続き、ご支援をお願いいたします。

そのほかの記念事業ですが、本年4月9日にチャリティーゴルフ大会を開催し、74企業等から賞品提供、参加者66組266名で、学生支援の資金造成にご協力いただきました。

また、6月18日には、大学キャンパスに彩りを添えるため、西田睦学長、来賓、同窓生とご一緒に同

窓会事務所前に花の咲く5本の樹木を記念植樹しました。

7月13日の定期総会後に記念講演と懇親会を開催しました。記念講演では、ミネラル含有量世界一の塩を開発製造した(株)ぬちまーすの高安正勝社長、県内経済界の重鎮としてご活躍中の(株)那覇空港ビルディングの安里昌利社長、カンボジアで医師としてご活躍中の嘉数真理子先生にご講演いただき、大好評でした。

今後の記念事業としましては、芸術祭を2025年2月11日に浦添市でだこホールで、記念式典を2025年2月22日に那覇市内のパシフィックホテル沖縄で開催いたします。

芸術祭は、西洋音楽と琉球芸能の二部構成で、現役学生やOB同窓生が多数出演します。

記念式典には各支部からお二人をご案内しますので、ご参列いただき創立70周年に華を添えてくださいますようお願いいたします。

結びに、当会関東支部が、高山厚子支部長の下、更にご発展されますよう、そして会員皆様のますますのご活躍とご健勝を祈念申し上げ挨拶いたします。

2024年8月吉日



植樹式



千葉県勝田台にて、ジャカルタ以来の囲碁仲間と

- 1961年 普天間高等学校卒業
- 1961年 琉球大学土木工学科入学
- 1964年 同大学土木工学科卒業
- 1965年 琉球政府建設局
- 1970年 琉球水道公社
- 1971年 (株)日水コン
- 2004年 国際協力機構・JICA

琉球大学の学生生活

大学は、戦後復興の一環として首里城址に建設された。川崎市と川崎沖縄県人会の協力により、戦後の沖縄県民に希望の灯となるよう佐藤惣之助の詩碑「しづかさよ 空しさよ この首里の都の宵のいろを 誰に見せやう 眺めさせやう」が見晴らしの良い場所に建立された。また、首里の龍潭池の隣に大学の男子寮があった。初めて親元を離れて他人と一緒に生活を始めた。寮の構成員は、4年(2)、3年(2)、2年(1)および1年(1)であり、木製の二段ベッドが3ヶ所に配置されていた。専攻学科、出身地や高校が異なる先輩たちとの共同生活だ。寮の雰囲気は独立独歩。自由だ。朝食と夕食は、賄いのおばさんたちの食事が待ち遠しかった。1週間に一遍程度、夕食に硬いクジラの肉が食膳に並んだ。硬いけど口中で噛むとじわっと肉の味がする。若いから食欲は旺盛だ。夜8時～10時頃、近くの大衆食堂に行き仲間と話しながら食べた油で炒めただけの焼きそばの味は絶品だった。入学直後、今で言う五月病になり勉強したくない症候群になった。しかし、学科の友達や先輩たちとの交流により夜中も実験室に籠る土質工学の実技に興味を持つようになった。

寮生活で忘れられない1日の記憶がある。1960年代、米国と日本国の安全保障条約に反対する学生を中心とした「安保条約反対」闘争があり大規模なデモが東京で起こった。アイゼンハワー大統領は、東京で岸総理大臣と会談する予定だった。しかし、日本政府が米国大統領の身の安全を保障できないため会談は中止になっ

た。それに伴い、実質米国民政府の管理下ある琉球政府の招待客として1960年6月19日アイゼンハワー大統領は嘉手納空軍基地空港へ降りた。高等弁務官や軍人たちの歓迎を受けた。当時米国民政府の傀儡政権の状態にあった琉球政府の太田主席と会談するため那覇市を訪れた。多くの労働組合や一般市民が米国民政府の統治に不満を持っていたため反対運動の波が那覇市泉崎に押し寄せた。琉大の男子寮に指導力のある寮長がいた。寮長の「さ、行くぞ」との掛け声に呼応して寮生が動き出した。男子寮が空っぽになった。ノンポリ・政治に関心がない私も友だちと一緒にデモに参加した。知らない左右の人たちと両手で輪を作るようにして琉貿デパート前の道路で琉球警察と米国の軍人と対峙した。軍人は鉄砲の先に銃剣で武装している。生まれて初めての危険を感じた。デモ隊は、私の知らない「労働歌や沖縄かえせ」のシュプレヒコール・大声で叫んで盛り上げた。形式上、琉球政府の招待で太田主席とアイゼンハワー大統領は会談した。今、スマホ



2024年4月27日、高山支部長宅にて

でアーカイブの映像を見ると大統領と主席がオープンカーに乗って沿道の人たちに帽子をとり挨拶する姿や少女二人が花束を持って歓迎式場で待機していた映像がある。当時も現在も米国や日本政府の政策に反対する人たちや賛成する人たちが混在している。歴史的に沖縄の人たちの負の遺産を見る思いだ。

アルバイトをする学生が多かった。寮の先輩の紹介で泊港に停泊している商船の荷下ろしの監視・ワッチマンを夜中にやった。当時としては、かなり良い時給だった。自分で稼いだお金だが、全て飲み代に消えた。週末の夜、首里の山川停留所でバスに乗り安里交差点のバス停留所で降りる。近くにこじんまりした飲み屋街があった。山原・ヤンバル出身のおばさんの店は繁盛していた。白鷺の強い泡盛にコカ・コーラを混ぜて飲みやすくする。友だちと何を話したかほとんど記憶にないが、飲みすぎて翌朝ひどい頭痛がした。濡れタオルで頭を強く縛る。もう泡盛は飲まないと心に誓う。数週間後の土曜日に、先輩から誘われると頭痛の誓いを忘れて安里の居酒屋で将来の夢などを語り大いに盛り上がった。

大学生になり身体を鍛えようと思い立ち、剛柔流空手の演武を見学した。白い空手着、黒帯と白帯をまとった空手部員の動きに魅せられた。剛柔流の部長に、今までスポーツや運動をしたことはないが入部できるか聞いてみた。まず、空手着を買いなさいと言われた。空手部員の動きをまねて1年間やってみた。しかし、私の身体が普通の練習に耐えられなくなった。1年後部長に退部を申し出た。白い空手着は、今タンスの中で眠っている。

空手部を退部したので、私にできる部活を探していた。大学に囲碁の強い高校のクラスメートがいた。琉大の囲碁部でも高段に属するようだ。彼に相談すると、囲碁は誰でも、いつでも始めていいゲームだと言われ囲碁クラブに通いだした。19×19の升目に白石と黒石を並べ陣地の多い人が勝ちという単純なゲームだが奥は深い。プロ棋士制度もある。琉大卒業時に3級程度に上達した。社会人になっても碁会所で腕を磨き日本棋院の4段の免状は本棚に飾っている。ジャカルタの囲碁仲間とは現在でも交流を続けている。

自叙伝を上梓

『水道技術者の挑戦 ―琉球独立の夢―』

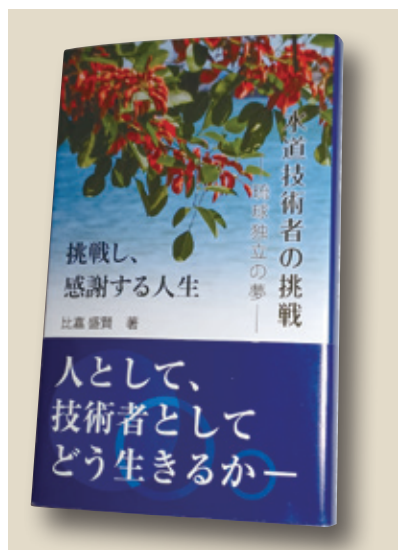
太陽技術士翻訳事務所：発行 定価1000円＋税

比嘉 盛賢 著

比嘉盛賢氏は水道技術者として内外の様々なプロジェクトに携わってこられた。その半生をまとめ、昨年（2023年）12月に自叙伝として出版された。幼いころの戦争体験から琉大時代、アメリカ留学、琉球水道公社勤務を経て東京の水道開発コンサルタント企業に転職するまで、そしてその後の、主に途上国での様々な飲料水供給プロジェクトに参加した経験が簡潔に記されている。戦後間もない

沖縄から、一人の技術者がどのようにして東京に、そして世界に羽ばたいていったか。読みやすくとても興味深い。

本書は、残念ながら一般の書店やネットでは流通していない。著者のご好意により、本年度の琉大同窓会関東支部の総会・懇親会にて希望者に数部を寄贈される予定である。この機会にぜひご一読をお勧めしたい。



インド西ベンガル州のプロジェクト。飲料水供給の実態調査



飲料水の取水ダムに至る橋の建設



1989年 琉球大学工学部電気工学科卒業
1989年 富士通株式会社入社
日本医療情報学会 会員



学びと絆で人生を健やかに

この度、歴史ある会誌に寄稿する機会をいただき、大変光栄に思います。学生時代や卒業後の歩みについて、少しお話しさせていただければ幸いです。

私は宮古島市で生まれ、18年間を過ごしました。平良中学では野鳥観察、吹奏楽、アマチュア無線、海外短波放送に熱中し、宮古高校では三年の夏まで吹奏楽に打ち込みました。その頃、父が脳梗塞を患い、リハビリを経て定年まで勤め上げましたが、これが医療や情報通信への関心につながり、東京や那覇での予備校生活を経て、電気工学科に進学しました。

大学では友人たちとメディアという技術系クラブをつくり、喜屋武盛基先生に顧問をお引き受けいただきました。当時、国内にはインターネットもまだない時代でしたが、琉大祭では企業や大学の協力を得て、国内外とのパソコン通信やハイビジョンの試験放送を展示し、ご来場の方々に楽しんでもらえました。そのようなご縁もあり、琉球放送の玉城朋彦氏や沖縄観光速報社の渡久地明氏をはじめとする皆

様から、クラブの会誌へご寄稿を賜り、大変光栄でした。学生ながら沖縄の未来に大きな期待を感じました。

アルバイトでは、那覇尚学院様に4年間お世話になりました。毎週の当直時には、友人たちとルビー食堂のCランチ弁当を夜食にしながら、レポートを書いていた日々は懐かしい思い出です。また、インターンシップでは、国際電信電話様の目黒の研究所で航空衛星通信実験を、琉球放送様では放送技術の現場に携わりました。プロの高い専門性と技術力に触れ、学びの大切さを強く実感しました。

卒業研究では、喜屋武先生の研究室で上田裕一先生に師事し、AI技術を用いた脳疾患の診断支援の研究に取り組みました。先生方のご指導のもと、東京通信病院様の「DOCTORS」という先進的なシステムを開発した著名な先生から学ぶ機会もいただきました。学ぶほどに技術の限界を知り、AI技術の社会への普及には長い時間と知見を蓄積する必要性を痛感しました。そのような経験から得た、人間や生命、自然の偉大さへの気づきが、私の人生の柱のひとつ



宮古島市街地上空

となりました。

1989年(平成元年)に現在の会社に入社し、希望の医療システム事業部配属となり、社会人生活が始まりました。当時、多くの業界で情報化が急速に進む中、終電ですら帰宅できない日々も多い時代でしたが、膨大な紙のカルテや伝票などの医療情報の電子化を、お客様や関係者のご協力を得ながら取り組み、現在では国内に世界有数の医療情報データが蓄積されていることに大きな達成感を感じています。

2020年、WHOが新型コロナ(COVID-19)のパンデミックを宣言、非対面や非接触が求められる中で、リアルな移動の制限とともに、ICTを活用した就業・就学、購買などのオンライン化が一気に進みました。オンライン化の是非はあると思いますが、週末には友人や家族らともリモートでの懇親も増え、例えば他愛のない「ゆんたく」や健康や介護に関わる情報交換や助言などなど、手軽になった繋がりを楽しんでいます。

ICT技術は暮らしや産業の基盤のひとつですが、いつの時代の技術にも限界はつきものです。例えばAI技術による言語処理にも誤りが含まれることがあります。そのようなリスクの存在を理解しつつ道具

として有効に活用するには、時代に即した学びが求められると思います。好奇心を持って学び、社会と多様な関わりを持つことは、健康にも良い影響を与えると実感しています。

還暦が近づき、2019年に久方ぶりに関東同窓会に参加させて頂きました。西田睦学長のご講演や、様々な分野で活躍する諸先輩や若手の方々との交流を通じて絆が広がり、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。同窓会事務局皆さま含めて心より感謝を申し上げます。今後も琉球大学OBとして地域の未来に少しでも貢献できればと願っております。引き続き、皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



夏の海・伊良部大橋

トピック

伊是名の泡盛を都心のコンビニで販売

3年古酒「常盤」

名嘉 盛光 氏



3年古酒「常盤」

関東支部の副支部長を務めている名嘉盛光氏は都内に数店のコンビニエンスストアを経営している。氏は伊是名島^{いぜな}の出身。故郷への恩返しの一つとして実現させたのが伊是名の銘酒、3年古酒「常盤」の都心2店舗での販売である。このことは琉球新報の第一面でも取り上げられた。



名嘉氏の記事(琉球新報2023年11月9日 1面)

「常盤」は、フランスで開催されている日本の酒のコンクール「Kura Master (蔵マスター)」で2021年に泡盛部門のプラチナ賞に輝いた。これを機に、ファミリーマート本社と掛け合い、氏自身の店舗で販売する許可を得た。物流コストを抑え地元とほぼ同じ価格での販売である。泡盛愛飲家の方はファミリーマートの新宿4丁目交差点前店または銀座中央通り店にてぜひ「常盤」を入手していただきたい。伊是名で熟成された芳醇な香りを味わうことができるはずである。

本誌『芭蕉誌』の「トピック」コーナーに掲載希望の情報をお持ちの方はお気軽に関東支部事務局までご連絡ください。6月末がその年度の締め切りです。

写真で見る

琉球大学

この一年

写真提供：琉球大学 禁無断転載

コロナ後の世界は国際化・多様化の度合いを加速度的に深めつつあります。この変化に対応し、地域の中核的な研究・教育機関としての役割を果たすために、琉球大学は様々な事業を展開し、活動行っています。

西田学長の「ご挨拶」(P.3)をご一読いただきながら、われらが母校のこの一年の動きをご覧ください。



総合技術部の創設 (2023年10月1日)



企業版ふるさと納税寄附贈呈式(宜野湾市) (2023年11月7日)



大学の世界展開力強化事業シンポジウムinハワイ大学ヒロ校
(2024年2月12～13日)



那覇ハーリー集合写真 (2024年5月3日)



工事中の新しい西普天間キャンパス(医学部・病院) (2024年6月)



盛山文科大臣 琉大視察 (2024年6月8日)



RX賞授賞式 (2024年6月19日)



琉ラボ1周年イベントでのトークセッション (2024年7月26日)

2023年度決算報告 & 2024年度予算案

単位:円

決算報告書(2023.9.1 ~ 2024.8.31)

来期(2024年度)計画

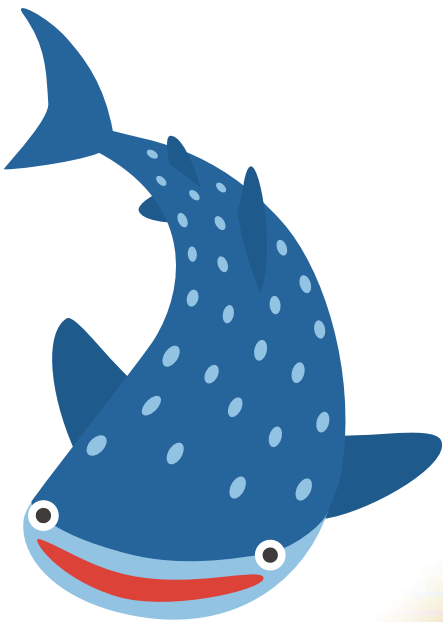
収支報告書				
収 入	予 算	実 績	比較増減	摘 要
前期繰越	981,668	981,668	0	
総会費	300,000	268,000	(32,000)	出席者36名
寄付金	100,000	88,000	(12,000)	
広告料収入	100,000	5,000	(95,000)	
活動費・旅費(本部より)	0	175,000	175,000	
受取利息	0	7	7	
合計	1,481,668	1,517,675	36,007	
支 出	予 算	実 績	比較増減	摘 要
事務用品費	10,000	0	(10,000)	
通信費	100,000	155,464	55,464	
封筒作成費	20,000	22,269	2,269	
会報誌作成費	120,000	68,600	(51,400)	
総会費(二次・三次会込)	360,000	323,429	(36,571)	
広告掲載料	0	35,660	35,660	
雑費・その他	50,000	88,452	38,452	
次期繰越	821,668	823,801	2,133	
合計	1,481,668	1,517,675	36,007	

来期予算	
収 入	摘 要
823,801	
400,000	8,000円×50名
100,000	
100,000	
175,000	
0	
1,598,801	
支 出	摘 要
10,000	
100,000	
20,000	
120,000	
400,000	
0	
50,000	
898,801	
1,598,801	

貸借対照表(2024.8.31現在)			
資産の部		負債・繰越金の部	
普通預金	823,801	未払金	0
未収金	0	次期繰越金	823,801
合計	823,801	合計	823,801

2023年度活動報告

第1回幹事会 2023年9月7日(水) 18:30 ~
2023年度関西支部総会
2023年9月9日(土) 高山支部長 出席
2023年度関東支部総会・懇親会
2023年10月21日(土) 13:00 ~ 16:00
第2回幹事会・新年会
2024年1月30日(火) 18:00 ~
比嘉盛賢さんを囲むランチ会
2024年4月27日(土) 18:00 ~
2024年度本部定期総会・支部長会
2024年7月13日(土) 高山支部長 出席
第3回幹事会 2024年8月15日(木) 18:00 ~



総会・懇親会へのご出席

琉大の出身者で縁のある方は、全て同窓会関東支部の会員です。毎年、10月の総会・懇親会にはお気軽にご出席下さい。かつての学科やサークルの仲間と集う機会としてご利用下さい。

会費の値上げ

本年度の会費は、これまでの6,000円から8,000円に増額させていただいております。
諸物価高騰の折から、会員の皆様には何卒ご理解を賜りますようお願いを申し上げます。

ご寄付のお願い

関東支部は、後輩たちの社会進出にも貢献したいと考えています。その為の資金として、皆様にご寄付をお願いしています。ご協力のを頂ければまことに幸いです。

振込先(郵便局口座) 郵貯銀行から振り込む場合：(記号) 10500 (番号) 52592781
他金融機関から振り込む場合：(店番) 058 (預金種目) 普通預金 (口座番号) 5259278

琉球大学同窓会 関東支部
支部長：高山厚子(初等教育学科 1962年入学)
事務局住所：〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目9-6
陽光銀座三原橋ビル6階
(中島信一郎法律事務所内)
Tel：03-6226-2200
メールアドレス：endo@nakajima-law.net

webサイト



Twitter



ブログ



Facebook



芭蕉誌 第24号 琉球大学同窓会関東支部会報誌 【禁・無断転載】 発行日：2024年9月20日
発行人：中島信一郎(法政学科 1975入学) 編集人：金城利光(法政学科 1975入学)

2024年度 役員名簿

支部長	高山 厚子	初等教育学科	1966年卒	事務局次長	遠藤 憲悟	生物資源科学科	2006年入
副支部長	崎浜 浩一	機械工学科	1965年卒	事務局次長	永江 哲也	大学院農学研究科	1998年入
副支部長	島袋 朝順	電気工学科	1968年卒	事務局次長	池間 裕人	電気工学科	1989年入
副支部長	江洲 良一	電気工学科	1968年卒	芸能部次長	比嘉 千都代	心理学科	1968年卒
副支部長	仲本 光正	経済学科	1981年卒	総務部長	高橋 清志	物質地球科学科	1998年入
副支部長	名嘉 盛光	体育学科	1974年卒	会 計	渡慶次 奈月	国際言語文化学科	2009年卒
副支部長	中島 信一郎	法政学科	1975年入	会計監査	奥村 弘美	養護科	1976年入
副支部長	宮城 悟	法政学科	1976年入	顧 問	渡久山 長輝	物理学科	1960年卒
事務局長	金城 利光	法政学科	1975年入	顧 問	桑江 良奉	英文学科	1950年卒
事務局次長	三村 邦彦	電気情報工学科	1992年卒	顧 問	中島 政彦	教育学科	1954年卒
事務局次長	糸数 昌史	電気情報工学科	1991年卒	顧 問	喜友名 朝昭	商学科	1961年卒
事務局次長	永田 幸江	法政学科	1995年卒	顧 問	砂川 義信	法政学科	1964年卒
事務局次長	吉岡 邦子	農芸化学科	1979年入	顧 問	重田 辰弥	法政学科	1959年入